

本化妙宗（法華經・本門）



『人間らしく生きること』

（恩を知って恩に報いる）



いつてんしかいかいきみょうほう
一天四海皆帰妙法



仏教が日本に伝来したのは六世紀半の「欽明天皇」の時代です。
そして仏教の開祖「ゴータマ・シッタルタ」釈迦牟尼世尊（釈尊）
は、今から約2500年前に印度で誕生されました。この現実の世界
で仏と成られた（悟りを開かれた）方は唯一釈尊お一人だけなの
です。ではその目的はと言えば、衆生を救い助けると言う誓願の
もとに人間として生まれてこられました。

遺伝子から言えば、仏様も私達衆生も〇〇兆個の細胞でその細胞
の中に100億対の人ゲノム（遺伝子情報）を持っていて、この持つ
ている物に違いはありません。只、この情報のオン・オフに差が出
ている訳です。

釈尊はその生涯を通して本来の人間として、これが本当の人間と
しての生きざまであるとお手本を示し実行されました。

人間と動物の違いはどこにあるのか？人間らしく生きる根本にな
っているものは只一言、「恩」の教えです。又、別の言い方を
すれば「感謝」の気持ちを持って生きてゆく。ところが今の人達は
この「恩」の意味を知らない感じない。全部自分中心になって
自己的にものをみることが多いのが現実です。この「恩」を教えた
ものが仏教の根幹といえます。



この「恩」の意味はと言えば、
心の因と書いて恩〓自分の心の命の源。
縁とは、五百塵点劫（計り知れない程の長い時間）の昔に帰る。

今自分が存在出来ている根本の種は何があって存在出来ているのか？その根本の種には、四つの種があって存在出来ている。

「知恩（恩を知る）」



(一) 父母の恩（養育） 命を与えてくれて養ってくれた。

(二) 一切衆生の恩（相互扶助） 自らの命を持続する為に日々の一米一粟又、師として教え導いてくれた人々。

(三) 国家・国王の恩（保護） 他国に脅かされず、侵略される

こと無く国民一人一人が安住出来る様に護ってくれる。

(四) 仏・法・僧の三宝の恩（恩恵） 天地宇宙法界の正しい運行

の恵みを与えてくれる。

これらの四つの恩の中では世間一般的には、先祖供養のみを中心にして恩は自分の親のみであると考えます。

しかし、法華経本門では、一番大切な根本の恩を説き教えます。

私達が生きているこの世界を（仏教の世界観）三界と言ひ、その中

の欲界の衆生と言ひます。欲界とは食欲・睡眠欲・男女欲を言ひ

ます、即ち本能的欲望（自我）のみで生きている、動物と同じ生き方をしてゐる。この自我の中身は「生存欲・生殖欲・自由欲」で、

それと共に又「同化欲」という仏と同じ性質（仏性）も本能的にもち合わせております。

（山川智応先生・四大属性論）

(一) 生存欲 自己というものを少しでも長く存在していきたい。

(二) 生殖欲 自己の勢力をより広く拡大していきたい。

(三) 自由欲 じゆうよく

自己の名譽・権力・地位の獲得に奔走する。

(四) 同化欲 どうかよく

無我に依つて仏の心に同化してゆく。菩提心を起こす。(仏の悟りを求め利他の為に働く)

現実の私達の社会は、この自我をもった人と人との結合に依り出来ています。これら一人一人の自我の執着により互いに孤立し、その為に争いが起こってきます。

遺伝子的に言えば人間が人間として生まれて来る確率は、70兆分の1でそう簡単に生まれて来ると思ったら大間違いです。つまり奇跡的な確率で生まれて来ているという事です。

日蓮聖人御妙判「身延山御書」に曰く



「大地の上に針を立てて大梵天宮より糸を下して、あやまたず糸の針の穴に入る事は有りと我等が人間に生るる事は難く、又億億万劫不可思議劫をば過ぐるとも、如来の聖教に値ひ奉る事難し。」

現代解釈

「大地の上に、一本の針を立てて、空の上の大梵天という天の宮殿の所から糸をおろして、間違ひなく針の穴に糸を通すことがあるとしても、我等が人間に生まれることは、それよりも難しい事である。その上、聖教・法華經に出会う事などあり得ない事だ。」

その人間の生きざまが動物と同じで良いのか、人間として本当の価値を知って生きてゆく。

「知恩を以て最とし 報恩を以て前とす。

世に四恩あり、

之を知るを人倫となづけ知らざるを畜生とす。」

(人倫とは、人間として守るべき秩序。この教えは、人間と動物の

違いを明らかにされたものです。) (聖愚問答鈔)

現代解釈

人間が生きてゆく為には、必ず四つの恩の支えに依って生きている事を知り、この恩に対して感謝の心を心に念じ口に出して身に顕わす。それが人間としての姿でありそれを知らない人は畜生的人間である。

「報恩(恩に報いる)」



(一) 父母の恩 自分の生命が永遠に続いてきた、生命の

伝承者である事の自覚を持ち、それと共に自分以外の他の生

命も大切にすることを育てて、親を思い先祖の廻向供養をする。

(二) 一切衆生の恩 涓水一滴も、天地の力を盡し。米粟一粒

も、萬人の勞を收む。(食法) 喉が渴いて飲む一滴の水も

天地のお陰であり、お腹がすいて食べる一粒のお米も 多く

の人達の勞力のお陰なのです。常に謙虚で素直な姿勢、又、

自分を取り巻く地域社会の人々に対して思いやりの心を持つ。

(三) 国家・国王の恩 国家と言う存在がなければ流浪の民と

なり一日として心身共に安住・安心した生活など出来ない

のです。日本の国の建国の精神を尊び国家の安寧を祈る。

法華經以外は
方便・權教
である

(四) 三宝の恩 (仏・法・僧) 自然と人間との共存出来る社会、
自然を愛する心に依って環境破壊を考える。

日本国の根本精神とは、日本書紀に書かれた神武天皇のお言葉。
「蒙くして以て正しきを養ひ、この西の偏を治らす。皇祖皇考
乃ち神にして乃ち聖にましまし、慶を積み暉を重ね、
多に年所を歴たり」

その御心は、「正しきを養い、慶を積み、暉を重ね」を言い、
普遍の正義を尊び、民生 (国民の生活) を豊かにし、文化を盛ん
にして平和な国土を実現しよう。



人間は自分の力だけでは、一日一時も生きて行けません。
それは私達は生まれながらにして天地・国家・社会・家庭等々、
其の他の多くのものからいつも恩を受けています。この恩に報いる
ことはどんな人にも課せられた大切な使命なのです。毎日この恩を
知り (知恩) これを感じ (感恩) これに報いるの (報恩) は唯一
人間のみであります。これが解らないでは獣と同じです。

「夫れ老狐は塚をあととせず。(狐は決して生まれた古塚を忘れず、
老いて死ぬ時にも必ず首を古塚に向ける)
白亀は毛宝が恩をほうず (昔、手宝に救われた白亀は後に戦いに敗
れた毛宝を背に乗せて岸に渡してくれた)」 || あやしの畜生

なんども、恩を報ずる事に候ぞかし。況や人倫をや（報恩鈔）
ほうおんしょう

人間は自分が生きていると思うから傲慢になる、沢山の恩に支えられて生かされていると思えば、そこに自然と感謝の心が芽生えて来ます。そして又人に感謝する時は心の中で手を合わせると言います。つまり自然に合掌の姿勢になります。この合掌の姿は相手に感謝や敬意を払うという意味であなたの事を大切に思っていると言う真心を形に顕したものであります。人間の本性は本来宇宙の生命と一体であり、皆の為に活かして生きる心です。

お釈迦様の覚られた功德（智慧と慈悲）が円満に具足された妙法五字（妙法蓮華経）。

山川智恵先生は法華経を以て「人間中心の經典」と云われております。末法時代（悪世末法）は佛法の効力が全く無くなった末世。この末法時代という重病には、法華経以外の薬（浅薬）では病気が救えません。法華経という最良薬の力を借りなければなりません。妙法五字に「南無」という命を捧げて任せるという美しい喜びの心でお題目を唱えます。この日蓮聖人の唱えられた「妙法蓮華経」を意に念じ口に唱え身に行います。

日蓮聖人御妙判「四信五品鈔」に曰く。

「小兒乳を含むに其の味を知らざれども自然に身を益す。」



荷車いっばいの法華經の書籍

今から
勉強
です



現代解釈

赤ちゃんの私達はこのお乳の栄養はどうかどんな成分など一切解らなくても無心に飲めば自然に仏の覚りの世界に入っていきます。

生きて行く指針が失われている今、

私達を目覚めさせる祈りです。

南無妙法蓮華經

合掌

「幸せになれる道」を見つけてませんか？

本化妙宗

知恩報恩会

